

『Mind Charging』

第 38 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 23 日

バンクシーの名言



皆さんありがとう。少しでもこの場所を明るくできれば。

バンクシー(Banksy)とはイギリスを拠点に活動する、『匿名+神出鬼没』の芸術家ですが、彼がどのような人物なのかその正体を知る者は誰もいません。バンクシーは世界中を舞台に、壁や橋などの様々な場所に、社会風刺的で、尚且つブラックユーモアを感じさせるメッセージとして、ステンシル技法(型紙)を用いた『落書き』によって数多く残しています。ロンドンのオークションハウスで、彼の作品に 1.5 億円もの価格がつけられ、その作品をシュレッダーで切り裂かれるという衝撃的な出来事は日本でも話題になり、バンクシーの名を世界中に広げるきっかけになりました。

ある日、イギリス南部の都市サンサンプトンにあるサンサンプトン・ジェネラル・ホスピタルに、大きさ1メートル四方大の、上段の絵が届きました。男の子がバットマンやスパイダーマンといったヒーローではなく、あえて女性看護師の人形を選んで遊んでいるのは、このコロナ禍における世界のピンチに立ち向かうヒーローが彼らではなく、医療従事者だというメッセージにも捉えられますよね。そして、今回紹介している「皆さんありがとう。少しでもこの場所を明るくできれば」というバンクシーからのメッセージも添えられてあったそうです。

普段の手法から、この絵にも闇の深いメッセージがあるかもしれないと話題になっていますが、今回は、平和と人々の命を大切に思う、芸術界のダークヒーローではなく、『人』として、医療従事者への感謝と労をねぎらうメッセージだと信じたいですね。もはやダークではありませんね。そして、正体不明の彼ですから、彼なりの『私は無事です』というファンへのメッセージだったのかもしれない。(編集委員：入試広報室 鈴木)

バンクシー(Banksy, 生年月日未公表)は、英国を拠点とする匿名のストリートアーティスト(路上芸術家)、政治活動家、そして映画監督。彼の風刺ストリートアートと破壊的なエピグラムは、独特のステンシル技法で実行された落書きとダークユーモアを組み合わせたものである。彼の政治および社会批評の作品は、世界各地のストリート、壁、および都市の橋梁に残されている。バンクシーの作品は、アーティストとミュージシャンのコラボレーションを伴う、ブリストルのアンダーグラウンド・シーンから生まれた。バンクシーは、後に英国の音楽グループマッシュヴ・アタックの創設メンバーとなったグラフィティアーティスト、3D に触発されたと語っている。(Wikipedia 参照)